

打越氏矢島入部四百年記念特別展示コーナー

矢島領をおさめた打越氏

打越氏とは、

元和九年（一六二三年）の所領替えを機に矢島の領主となった一族です。戦国時代には由利十二頭の豪族の一つとして、由利本荘市の内越地域に勢力を保持していました。国替えにより十六代目当主打越左近光隆は、常陸国行方郡より、矢島三千石の領主として八森の地へ入りました。また、入国の際に光隆は龍源寺を開基しました。その後、光隆は家督を嫡子の打越左近光久に譲りましたが、寛永十二年（一六三五年）に夭折してしまいます。この時光久に継嗣がおらず、矢島領知行としての打越氏は取り潰しに合い、家は断絶してしまいました。打越氏が矢島を離れた後は、生駒氏が着封し、以後の知行となりました。



（写真左より、初代和尚、光隆、光久による龍源寺開基の様子）

展示期間

月曜休館（祝日の場合はその翌平日）

令和6年

1月31日 **水**まで

9時00分～17時00分

会場／アクセス

矢島郷土文化保存伝習施設

矢島郷土資料館

由利本荘市矢島町七日町字羽坂 64-1

TEL: 0184-5612203

FAX: 0184-5514224

由利高原鉄道「矢島駅」より徒歩5分

日本海東北自動車道「本荘IC」より

車で30分 ※入場無料

現在、矢島郷土文化保存伝習施設では、六郷氏・岩城氏・打越氏 由利本荘市入部四百年事業に関連した特別展示コーナーを設けています。

打越氏に伝わる脇差と短刀のほか、豊臣秀吉が由利郡の領地の領有を承認した文書、打越氏に関連する資料を展示しています。

皆さまお誘い合わせの上、ぜひお立ち寄りください。